

検証プロセス

移動ニーズの確認 ⇨ 仮想設計 ⇨ 短期の実証実験 ⇨ 手動運転による運行*

実施済みのアンケート
南1丁目を想定

実施済みのアンケート
南1丁目を想定

仮想設計に基づく実証実験
実際の車両を使用
複数の乗降スポットと目的地を設定
プロトタイプのスマホアプリで予約
手動運転で送迎（乗降の課題を確認）

実際の運行による検証
登録者のみ（無償）
長期の実証実験
#次ページ

予算化が必要

費用

- プロトタイプ開発
- 車両の運搬
- 準備作業
調整、告知、アンケート作成など
- 実証実験スタッフ
運転、集客・案内、乗降サポート、
安全管理、アンケートなど

移動の現状調査

- 目的地、時間帯（往復）、頻度
現状の移動手段、同行者など
 - 参考情報
移動の希望（もし移動手段があったら）
- 予約手段について
- スマホを持っているか？
 - 持っている場合は何を利用しているか？
 - ガラゲーを持っているか？

今回の取組



自動運転による運行・地域拡大

自動運転実用化へのステップ

*

手動運転による運行

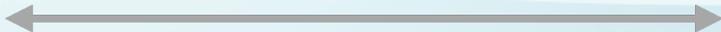


自動運転車両/運行システム導入

自動運転化（レベル3+遠隔監視・操作）

- 遠隔監視者のみによる無人運行

同じ車両で空き時間に並行して実施



遠隔型自動運転（実証実験）

自動運転の公道実証実験に係る道路使用許可基準（令和2年9月 警察庁）

- テストドライバー（1名）同乗
- 遠隔監視者（1名）

自動運転車両 / 運行システム



運行システム

呼出し・予約UI

会員・データ連携基盤

運行管理・自動配車

遠隔監視・制御



自動運転車両

他所での実証実験の様子

